

# 久留米



2008年夏号

[AUGUST 25, 2008]

久留米工業高等専門学校企画主事室  
〒830-8555 久留米市小森野1-1-1  
TEL:0942-35-9300  
<http://www.kurume-nct.ac.jp/>

## 韓国に留学して

### 機械工学科 田中 大

文部科学省の海外先進教育プログラムへの応募が採択され、2007年5月から2008年3月までの11ヶ月間、韓国の大田（テジョン）の韓国機械材料研究所へ留学しました。研究をするかたわら、韓国の文化に触れるため、韓国語の学習や地元の方との交流にも積極的に取り組みました。ここでは、韓国での生活を通して感じたことなどを紹介してみたいと思います。ただし、私は1年不足という期間に、かなり限定された人間関係の中、つたない韓国語でしかコミュニケーションを取れなかったこともありますので、あくまで、私個人がちょっとだけのぞいて感じた韓国です。

韓国に行って驚くのはまず、運転マナーのひどさでしょう。特にバスとタクシーの運転は、とても客を乗せているという運転ではなく、荷物を載せている、という感じです。まあ、日本も昔はひどかったのが良かったというのがありますし、韓国でも10年程前よりはよくなったそうなので、あと何年後にはもっと良くなるかもしれません。

料理ですが、9割5分は辛い料理になります。辛いものが苦手な方はかなり大変かと思えます。味はというと、「唐辛子の暴力」という感じで、おいしいことはおいしいけど、何を食べても似たような味になってしまいます。ただ、韓国人が日本に来ると、何を食べても味がしない（薄味）、と言っていたので、故郷の味がおいしいというのはお互い様でしょう。

教育はというと、中学生は夜10時頃まで、高校生は夜12時頃まで勉強しています。夜中まで塾帰りの生徒たちが町をうろついているのは妙な光景でした。夜12時まで勉強したら部活ができないのでは、と聞くと、勉強をする子は部活をせず、勉強ができない子だけがスポーツの道に進むということでした。部活動もでき、そこそこの勉強で大学に進学できる高専は、それに比べてなんと恵まれているのだろう、と思えます。

最後に、今回の留学を許可して下さった校長先生、機械工学科長、機械工学科の教職員の方々、ならびに色々とお助け下さった教職員の皆様に心より感謝申し上げます。



韓国大田の旧正月風景

## Made in Japanを実感して

### 材料工学科 田中 慎一

2007年3月24日～2008年3月25日まで、カナダ キングストン市にあるクイーンズ大学 理学部 化学科に1年間留学し、金属表面に吸着する水素原子の重さを測る研究を行ってきました。この留学中に感じたことを簡単に紹介します。

留学して一番驚いたことは、日本車の値段でした。トヨタのカローラが120～150万円程度します。これは、新車価格ではなく、走行距離が10万km前後の中古車の値段です。聞くとところによれば、日本車は故障しないので人気が高く、中古車でも価格が下落しないとのことでした。誰に聞いても、日本車の品質に対する信頼は絶大なものがありました。日本車に対する不満を数回耳にする機会がありました。それは、何故日本車はデザインをコロコロと変えるのか理解できないというものでした。私も気が付かなかったことですが、例えば、ポルシェやボルボなどは、基本スタイルは長年同じです。日本車が頻繁にモデルチェンジを繰り返す理由を聞かれました



Queen's 大学前に広がる凍て付くオンタリオ湖

## 知らせる必要のある情報と 漏らしてはならない情報

総合情報センター長 江頭 成人

個人情報を出してはならないことは、多くの方がご存知でしょう。しかし、個人情報の範囲やその適用例外をご存知の方は、少ないように見受けられます。その結果、必要な情報が知らされずに、不幸な結果となる場合があります。

例えば、2007年9月25日に佐賀市で、知的障害を持つ男性が警察官に取り押さえられた直後に死亡した事件がありました。ここで問題は、「誰が障害者であるか」という個人情報を開示することではなく、「障害者はどのような行動をとるのか」「障害者がどの程度いるのか」を警察官が知っていれば防げたかもしれないことです。もちろん、犯罪に関係することは、正確な情報を速やかに通報しなければなりません。

また、2005年4月25日のJR福知山線脱線事故では、家族側に死傷者の情報を明かさない病院があり、混乱を招きました。しかし、生命にかかわる場合は、個人情報の開示が例外的に認められることがあります。緊急連絡網もこれに該当すると考えられ、本校も緊急連絡網を作らねばなりません、その形式や取り扱い、運用には十分な配慮が必要です。

そのために本校では、情報を適切に管理運用するための組織作りおよび規則の制定を進めています。本校で取り扱う全ての情報を、漏らしてはならない情報と知らせなければならぬ情報に分別し、知らせるべき範囲内で適切に運用されるようにいたします。

現在、学校裏サイトなどが問題になっていますが、教職員だけではプライバシーの侵害やいじめなどを防ぐことはできません。学生諸君や保護者の皆様のご理解とご協力をお願いします。けじめのある情報の取り扱いをお願い申し上げます。

が、明確な回答はできませんでした。おそらく我々日本人は、新しい物、新機能が好きであることに起因するのではないかと考えています。

日本車に対する信頼と同様に、コンピューターや家電製品などに対する信頼も抜群です。最近では、任天堂のゲーム機器が、ゲームソフトを含めクリスマス商戦で飛ぶように売れることも目の当たりにしました。また、工業製品ばかりでなく健康志向の高まりから、日本食への関心の高まりや、子供向けテレビ番組にも、ポケットモンスターを始めとする数多くのアニメーションが放送され、日本生まれのキティーちゃんも女の子には大人気など、兎に角、「Made in Japan」パワーには、凄いものを感じました。これはカナダだけではなく、サウジアラビアなどの中東からの留学生に聞いても、中東でも日本製品人気は絶大なものとのことでした。

今後もこの日本製品人気の状態が続くかと言うと、甚だ疑問を感じます。クイーンズ大学にも多くの中国人学生、韓国人学生が在籍しています。彼等の勉学や知識の吸収に対する貪欲な姿勢は、我々日本人が失いかけているものではないかと感じます。留学中に日本人の学生（多くは短期の語学留学生）も数人見かけましたが、ダウンタウンのバーで「万歳！」と大声で日本語を叫びながら泥酔する姿には、同じ日本人として少々恥ずかしさを覚えました。

資源の無い日本が今後も豊かな生活を送るには、やはり現在の技術レベルを維持・発展させ、高品質の工業製品やその関連技術を世界に発信し続けなければならないのではないのでしょうか。技術者養成学校である高専に勤務するものとして、今回の留学で感じた「Made in Japan」パワーを、授業や卒業研究などを通して様々な形で学生にフィードバックしながら、もっと凄い「Made in Japan」を創り出せる人材を社会に送り出せたらと思っています。

最後に、本留学を快く承諾して下さった校長先生、材料工学科の先生方、事務職員の皆様には、この場を借りてお礼を申し上げます。有り難うございました。

## 人事交流教員の報告

### 久留米（高専）の印象

一般文科 明官 秀隆



体育の授業風景

久留米市は耳納連山と福岡から佐賀にのびる背振山系に囲まれ、その間を筑後川がゆったりと流れるという風光明媚な大変恵まれた自然環境の下に位置しています。北アルプス麓の豪雪地帯立山町に生まれ育ち、日本一寒い街（冬季間の平均気温はモスクワより低い）と言われる旭川で暮らしてきた私にとっては、雪がなく温暖な久留米はあこがれの地でした。夏は多少暑いですが、生まれて初めて雪のない世界で一冬を過ごしてみると、雪との格闘がない快適さ・ありがたさは何ものにもかえがたいものがあります。体がとても楽なので、老後は久留米に移り住もうと決心しています。

また30万都市にしては周囲に田園地帯が広がり、人の気質もとてもおのんびりおっとりした土地柄に思えます。博多・熊本・鳥栖などにも近くて交通の便が良く、九州各地を訪ねるにもとても良い場所です。

その羨望の久留米高専に赴任して早一年が経ちました。私は釧路高専5年、旭川高専に15年勤務しておりますので本校は3校目の経験ということになります。北海道の2高専と比べた久留米高専の特徴を挙げると、まず驚いたのが緊急時以外に一切の校内放送が無い事です。他校では、昼休みや放課後にうるさい位学生の呼び出しや会議の案内などが放送されます。それが普通だと思っていたので、最初はちょっと戸惑いましたが、慣れてみると unnecessaryな放送が無く静かで良いことだと思ようになりました。次にバイク・車での通学がかなり自由な事です。旭川では本科生は全面禁止、釧路でも5年生が車のみ許可制で、低学年からバイク・車で自由に通学する風景にはかなりビックリしました。この自由な通学制度と公共交通機関が便利なのが寮生数の少なさ（釧路・旭川の半数）にもつながっているのでしょうか。

あと、体育大会・高専祭などが学生主体で企画・運営がなされている点ですが、これらに共通しているのは、前身が短大ということもあり自由な雰囲気と自主性を重んじる教育方針、学生側の自覚や規律ある行動のたまもので素晴らしい伝統だと思います。

◆教務主事	馬越
教務主事補	原田、宮崎、江頭、椿、福田か
◆学生主事	松井
学生主事補	橋村、田中大、原、渡邊、谷、金城
◆寮務主事	櫻木
寮務主事補	江崎、松田貴、矢野、山本稔
◆専攻科主事	笹栗
専攻科主事補	中武、池田隆、丸山、泉本
◆企画主事	綾部
企画主事補	藤田、平川、中島、山崎
◆学科長	松永（機）、長田（電）、福田幸（制）、津田（生）、奥山（材）、平元（一文）、宮本（一理）
◆図書館長	東島
図書館長補	中坊
◆図書主幹	中坊
◆総合情報センター長	江頭
◆電子計算機室長	大崎
◆産学民連携推進センター長	伊藤
産学民連携推進センター長補	中武、富岡、越地
◆学生相談室長	中畑
◆放射線取扱主任者	奥山
◆X線作業主任者	奥山
◆就職主任	松永、高松、小田、伊藤、平野
◆留学生指導教員	橋村、平川、中野、辻

## ◆学級担任教員

	1	2	3	4	5
機械工学科	江島	金城	石丸	原田	橋村
電気電子工学科	中坊	岡本	高松	平川	中島
制御情報工学科	龍頭	越地	江崎	中野	黒木
生物応用化学科	小宮	宮地	辻	富岡	石井
材料工学科	高橋	木寺	周	濱上	平野

## ◆専攻科担任教員

	1	2
機械・電気システム工学専攻	丸山	中武
物質工学専攻	泉本	笹栗

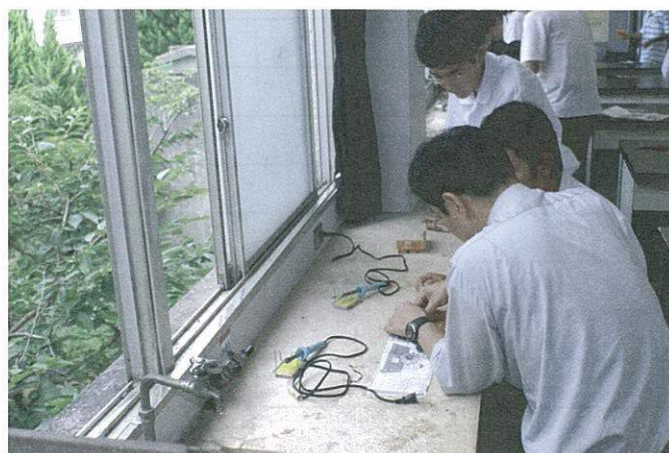
## 中学生向け公開講座「あなたも一日サイエンティスト」を開催

本校は、中学生のための公開講座「あなたも一日サイエンティスト」を7月31日、8月1日に、一般科目（理科）の教員、技術職員が担当して開催しました。近年、青少年の「理工系離れ」が社会的問題となっています。この対策の一環で、本校は理工系高等教育機関として中学生を対象に公開講座を開設し、定理や理論上の単なる知識の習得ではなく身近な現象や自らの体験を通して理科・技術への興味を喚起することを目的としました。

同講座には、久留米市内及び近郊の中学1、2年生24名が参加し、物理コース「エコロジーラジオ（電池のいらないラジオ）を作ってみよう」及び化学コース「あっ！！と驚く不思議な現象を体験しよう」の2つのコースをそれぞれ1日ずつ体験しました。子どもたちは、電池を使用しないエコロジーラジオの製作体験や試薬を使った銀鏡反応、炎色反応等の化学実験を通して理科への興味・関心を高めるとともに、機械工作工場などの見学により久留米高専での2日間を楽しんでいました。



中学生向け公開講座の授業風景



## 第45回（平成20年度）九州沖縄地区高専体育大会の成績報告

平成20年度の九州沖縄地区高専体育大会では、本校からの参加者が下記の成績を収めました。

バスケットボール	男子団体		第3位	
卓球	男子団体		第3位	
	個人	3 S 江頭 勇政	第2位	全国大会出場
陸上	走高跳	2 E 久積 慧	第1位	全国大会出場
	走幅跳	4 M 森光 博美	第2位	全国大会出場
水泳	100m 自由形	3 C 倉地 康平	第3位	全国大会出場
	100m 背泳	3 M 永尾 健太	第2位	全国大会出場
	200m 背泳	3 M 永尾 健太	第3位	全国大会出場
	100m 平泳	3 S 宮川 祐輝	第2位	全国大会出場
	200m 平泳	3 S 宮川 祐輝	第3位	全国大会出場
	400m リレー	3 C 倉地、3 M 碓井、3 M 永尾、1 S 嶋田	第2位	全国大会出場
	400m メドレーリレー	3 M 永尾、3 S 宮川、1 S 田崎、3 C 倉地	第1位	全国大会出場
柔道	90kg以下級	4 E 浅田陽次郎	第2位	全国大会出場



柔道90kg級で準優勝した浅田陽次郎君と外部コーチの塚本篤行先生

## 第43回（平成20年度）全国高専体育大会の成績報告

全国大会に進んだ学生諸君はそれぞれに日頃の成果を存分に見せてくれました。普段どおりの力を出し切れなかった選手も、来年に向けてエールを送りたいと思います。

卓球	個人シングル	3 S 江頭 勇政	予選リーグ	4位
陸上	走高跳	2 E 久積 慧	予選記録	1m 65cm
	走幅跳	4 M 森光 博美	第7位	4m 74cm
	走高跳（オープン種目）	4 M 森光 博美	第2位	1m 50cm
水泳	100m 自由形	3 C 倉地 康平	第7位	57秒56
	100m 背泳	3 M 永尾 健太	第6位	1分07秒76
	200m 背泳	3 M 永尾 健太	棄権	
	100m 平泳	3 S 宮川 祐輝	予選記録	1分15秒15
	200m 平泳	3 S 宮川 祐輝	予選記録	2分45秒68
	400m リレー	3 C 倉地、3 M 碓井、3 M 永尾、1 A 隈	第7位	3分57秒91
	400m メドレーリレー	1 S 田崎、3 A 淵上、1 S 嶋田、5 M 松木	予選記録	5分03秒52
柔道	90kg級	4 E 浅田陽次郎	準優勝	

# 新任者紹介



**池田 英幸** (いけだ ひでゆき)  
**職名** 材料工学科 教授  
 (平成20年4月1日付)  
**前職** 鹿児島高専 機械工学科

**抱負** 教員交流制度により赴任いたしました。1年間こちらでお世話になります。伝統ある久留米高専で微力ながら若い技術者を育成するための教育に尽力させていただきます。何卒、よろしくお願いいたします。

**趣味** 絵を描くこともありましたが、最近では専ら鑑賞することが趣味です。



**宮地 俊彦** (みやじ としひこ)  
**職名** 一般科目 理科系 教授  
 (平成20年4月1日付)  
**前職** 福岡県公立高校教諭  
 (大川、八幡南、若松、戸畑、東筑、八幡中央の各高校)

**抱負** 若い皆さんと再び数学の勉強ができることを大変に嬉しく、感謝しております。分かる、楽しい授業を作り上げることに全力投球するとともに、学生の皆さんから多くのことを学び、学んだことを授業の改善のために積極的に利用したいと考えています。

**趣味** 特にあるわけではありませんが、地図と時刻表を見ることと、鉄道車両を眺めたり、乗車することに小学校以来大変に興味を感じています。一時は鉄道の雑誌を多く購入していましたが、今は立ち読みです。



**赤塚 康介** (あかつか こうすけ)  
**職名** 一般科目 文科系 助教  
 (平成20年4月1日付)  
**前職** 生理学研究所  
 感覚運動調節研究部門

**抱負** 教育の現場で仕事をするのは初めてですので不慣れなことも多くありますが、一生懸命頑張っていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

**趣味** 読書、スポーツ観戦



**井上 直志** (いのうえ ただし)  
**職名** 事務部長  
 (平成20年4月1日付)  
**前職** 徳島大学学務部 学務課長

**抱負** 高専の仕事は7年ぶりです。昔を思い出しながら、また、新しいことを取り入れながら一所懸命がんばります。よろしくお願いいたします。

**趣味** 体を動かすことが大好きです。しかし、若い時のような激しい運動は難しいので、時々ロングウォーキング専門です。ここ数年、四国遍路にはまっています。



**松田 嘉弘** (まつだ よしひろ)  
**職名** 総務課企画情報係員  
 (平成20年4月1日付)  
**前職** 大学生  
 (福岡大学経済学部経済学科卒業)

**抱負** 社会人1年目でみなさんにご迷惑をおかけしています。1日でも早く仕事に慣れるように一生懸命頑張りますのでよろしくお願いいたします。

**趣味** 音楽鑑賞、サッカー



**稲尾 美穂** (いなお みほ)  
**職名** 事務補佐員 総務課企画情報係  
 (平成20年4月1日付)  
**前職** パナソニックSSエンジニアリング九州PSSE社 経理課

**抱負** 一日も早く、職場に慣れ、皆様のお役に立てるようがんばりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

**趣味** 寝ること、ウィンドショッピング、インターネット

## 「ものづくり」って何なの？

校長 前田三男

私が高専の校長になったとき、しばしば「ものづくり」という言葉が出てくることになぜか違和感を憶えました。私のいた大学の工学部では、私が電子情報系だったせいもあるのでしょうか、そういう言葉に出会うことはほとんどありませんでした。ところが高専機構の出す文書には盛んにこの用語が出てきますし、高専が目指すのは「ものづくり技術者の育成」であることは、高専の人たちにはあたり前の共通認識のように見えました。最近出た一番新しい中教審の答申からして、「ものづくり技術者の継承・発展」というのがサブタイトルになっていて、今後もその路線は継承されそうです。

高専に勤めているうちに、私もこの言葉にはだいたい慣れてきましたが、未だに最初の違和感が解消されたわけではありません。そこで今回は「ものづくり」とは何なのか、私が感じた違和感の原因がどこにあるのかを、少し分析してみます。「高専の校長が何を今さら」と言われそうですが、まあ自分自身を納得させるための文章だと思って読んでください。

### 高専は「ものづくり技術者」の育成機関？

まず「ものづくり」の「もの」というのは、何なのでしょう。か。「ものづくり」＝「製品を生産すること」という意味に考えれば、たとえば電力等のエネルギー開発、化学、材料工学のような素材の開発、資源の開発などの仕事は除外されてしまいます。高専にはそういう分野の人が相当いるにもかかわらず、あまり文句が出ないのは、間接的には自分たちも製品の生産、つまり「ものづくり」に寄与していると考えて、一応納得しておられるのでしょうか。

情報工学や通信工学になると、そのあたりがさらに曖昧になってきます。ソフトウェアの多くは、コンピューターという製品を動かす手段を提供するものですから、まあいいでしょう。しかし、情報工学とか通信工学の本来の目的は受給者に「情報」を提供するという一種のサービス業です。そのサービスを「もの」と呼ぶのはかなり無理があります。電波高専というのはもともと無線技術士の養成学校だったと聞いています。また、商船高専となると、本来は船員の養成機関でしょう。そういうものが共存している高専を「ものづくり」でくくってしまうのは相当無理があるように感じます。

### 「ものづくり」が登場した背景

この「ものづくり」は、1990年代後半のバブル崩壊以降に使われるようになった新語で、独特のニュアンスが込められているような気がします。日本の経済界において製造業に従事する人たちが、その復権をめざして考え出した合い言葉といった感じです。ここで「もの」＝「商品」という訳では決してありません。経済学で言う商品とは、社会的にある価値があって、取引の対象になりうるすべての対象を指します。工業製品ももちろん商品ですが、その他に、不動産、各種のサービス業務、証券や株券、はてはゴルフ場の会員権まで、お金で売買されるすべての対象が商品です。

そんな具合に「商品」の中には「もの」としての実体がないものがあり、そういった浮ついた「商品」の氾濫がバブルを引き起こしたという反省の上に立って、日本の産業基盤を製造業に求めようとする願いが「ものづくり」ということばにこめられています。このような流れを背景に、平成11年には「ものづくり基盤技術振興基本法」という法律が定められ、「ものづくり」の振興が国の政策の一環に採り入れられました。この法律に基づき経済産業省が毎年出している「ものづくり白書」というのを見ると、「ものづくり」とは要するに製造業のことだということがよく分かります。

「ものづくり」が国の施策に採り入れられたもう一つの背景は、若い人たちの製造業ばなれ、第3次産業への流失、さらには工場の生産技術者の高齢化による技術継承に対する危機感にあるようです。「ものづくり」というちょっと古風な言い回しに込められたニュアンスは、「ものづくり」の振興が昔からの職人技の伝承を基盤にしていることを示しています。そういう種類の伝統的な技術・技能を支える人たちが、産業の柱であるという思想が根底にあるようです。それと同時に、「ものづくり基盤技術振興基本法」に採り入れられたことで、このことばは「国策」的な色合いが強くなりました。



それに対して一般に「専門学校」というのは、本来職業人の育成機関であって、職業別に分類されるのが特徴です。例えば調理専門学校は料理人、デザイン専門学校はデザイナー、看護専門学校は看護師になりたい人たちに専門知識と技術を教える学校です。高専の人たちは「高等専門学校は専門学校とはちがう」と主張しますし、私もそう思います。高専の位置付けはもっと大学寄り、職業教育以上のものを目指していると思います。しかしそれはともかくとして、一種の専門学校であることは確かです。その意味で、高専が職業的には「高級な工業技術者の育成機関」とであるという定義は、私にもあまり違和感なく受け入れられます。

因みにウィキペディアで「技術者」の定義は何かを引いてみますと、「理学・工学分野の知識を基礎とし、有用な物や工程・システムを設計・開発する人」と書いてあります。これなら無線技術者はもちろん、技術系の船員養成も問題なく高専の守備範囲に入ります。だから高専が「技術者の育成」を目標とするならいいのですが、「ものづくり技術者」とすると、かなりはみ出す分野が出てくるのは先に書いたとおりです。

しかし、「ものづくり技術者の育成」が産業界からの強い要請であり、高専もその分野に重点を置くというのであれば、一応納得できます。それにもかかわらず、私自身はこのことばに違和感、というか一種の「くさみ」を感じることを否定できません。それはどこから来るのでしょうか？



「ものづくり」の達人田中久重（からくり儀右衛門）作の万年時計（1851、国立科学博物館蔵）

「ものづくり」は機械工学帝国主義？

これは学問領域の話ですが、数十年前昔「物理学帝国主義」ということばが存在しました。理学、つまり自然科学の分野は、中学の理科の分類と同じくおおまかに「物理」「化学」「生物」「地学」と分けられます。今日の自然科学の基本的な手法は、宇宙は「基本法則」と呼ばれるもので支配されており、それを見出してあらゆる自然現象を説明しようとする考え方です。デカルトの「方法序説」で唱えられたこの思想は、哲学的には「還元主義」とも言われていますが、物理学でとりわけ成功を収めました。ニュートンの古典力学、熱力学、マクスウエルの電磁気学、ミクロな世界を支配する量子力学、アインシュタインの相対性理論などがその典型で、自然現象の多くがその法則をもとに機械的に計算可能になりました。

20世紀になると、原子・分子のミクロなレベルの研究が進み、化学反応は一種の力学および電気現象として理解できるようになりました。生物の基本である生命現象も、突き詰めていくと複雑な化学現象にほかなりません。ビッグバン宇宙論の登場によって、物質がこの世の中にどういう経緯で存在するようになったかが明らかになりましたが、そのメカニズムを支配しているのも物理法則です。

そういう風に考えていくと「化学」「生物」「地学」の上に、優越的に「物理学」があって、すべての自然現象は物理法則で説明されるという思想が「物理学帝国主義」です。しかしそれは一面的な見方であって、実際には簡単な化学反応ですら量子力学で定式化するのは難しく、ましてや生命現象となると、そういった還元主義的な機械論はほとんど役にたちません。そこで最近では還元主義に対抗して、たとえば「複雑系」といった別の見方で自然現象を説明する新しい思想も生まれてきているわけです。

工学と呼ばれる分野を分類する場合にも、「ものづくり」を中心に考えてみると、「機械工学帝国主義」といった色合いが出てきます。つまり、ものの生産は多くの場合機械工作によってなされるので、機械工学こそが工業の基盤であって、その他の分野はそれに奉仕すべきであるといったヒエラルキー思想になってしまいます。

私に「ものづくり」ということばが未だにどうしてもなじめないのは、根底にそういった思想に対する警戒感がありそうです。これは私が電子情報系の人間であるところからくる「ひがみ」なのでしょうか。確かに歴史的に見れば工学は「ものづくり」から出発しました。たとえば久留米出身の田中久重などは「ものづくり」の達人と言ってもいい人でしょう。しかしその後工学の持つ社会的な影響は著しく拡大し、人間生活そのものを変えてゆきました。それに伴って工学技術者の守備範囲もどんどん拡大しています。今後の工学技術者の社会的な役割については、もっと広い視野に立った議論が必要ではないかと、私は考えています。

## 久留米高専の授業について

教務主事 馬越幹男

学生の皆さんは、日頃の授業にどれだけ熱心に取り組んでいますか。皆さんが学校で過ごす時間のうち、授業、実験・実習に費やす時間が最も長いですよ。また、演習問題を解き、実験等の結果をまとめ、参考書や文献を調べ、報告書を書くのに要する時間も相当なものでしょう。受験に捉われず、授業に真剣に取り組む、学んだことやこれから学ぶことを演習や実験・実習で確かなものにする事は、学生時代に訓練すべき最も大事な事だと思います。

先生方は、知識を与え、いかに勉強すべきか、日々皆さんに語りかけているはずですが、しかし、自らを訓練して育てるのは皆さん自身です。先が見通せない中での訓練は、相当な忍耐力と集中力が求められます。挫折することもあります、プロフェッショナルな技術者となるためには避けて通ることはできません。そこまでに蓄えられた基礎的な素養、知識、経験は、将来皆さんの大きな糧となって結実し、大げさに言えば、わくわくするような知の創造、知の冒険の始まりとなるでしょう。校長先生が久留米高専のホームページの校長挨拶の最後に「校長のひとりごと」を掲載しています。その中に、先生が歩まれたレーザーの研究に関する一連の文章があります。これこそ、まさに知の創造、知の冒険ではないでしょうか。

世の中の動きに惑わされずに日々の実践を積むことが、力強い基礎力を身につけることになるとともに、皆さんの将来を切り開くことにつながると思います。

理工系では、公式をたくさん覚えることが重要なのではなく、数少ない基礎的な公式からいかに他の多くの公式を導くことができるか、そして根本的なことからいかに筋道立てて論理的に考えることができるか、が重要だと思います。公式の成り立ちを原点に立ち返って理解すれば、応用問題に取り組む糸口も開けてくると思います。学校教育には限界があり、万全ではありませんが、我々教員が真剣に授業を行い、学生の皆さんが真剣に勉学に取り組むことによって、学校本来の「学びの場」が造られていくと思います。繰り返しになりますが、我々教員が学生の皆さんに手を抜くことなく教え、皆さんが真摯に学んで問い返す、という双方向性が重要だと思います。5年間、あるいは専攻科も含めた7年間は長いようで短いのです。しかし、今からでも遅くはありません。過度に意識することなく、淡々と日々の生活を見直し、思い立ったときから技術者になるための勉学に励み、前向きで充実した学生生活をめざしてください。我々教員は、そのためにできるだけの手助けをしていきたいと考えています。

## 機械・材料工学科棟エレベータ設置及び寮改修工事について

総務課長 伊藤 重則

### ○機械・材料工学科棟エレベータ設置工事について

本件にかかる工事請負契約を7月20日付で締結しました。工期末は10月31日です。

工事内容は、①一般乗用兼車いす用（機械室レスエレベータ）11人乗り1台を棟の東側階段横に設置します。②エレベータ設置により3階にある機器分析実験室を1階の多目的教室に移設します。③また、4階にある腐食防食実験室を3階機器分析実験室跡に移設します。今回のエレベータ設置により本校では4台目となります。

なお、エレベータ内からの非常連絡用電話器が学生課内に設置されていますが、今回の工事に併せて1台の電話機に集約します。

工事期間中は機械工学科及び材料工学科の教員・学生にはご迷惑をおかけしますがご協力願います。

### ○寮改修工事について

本件にかかる工事請負契約を8月7日付で締結しました。工期末は平成21年1月30日です。

工事内容は、①寮の耐震改修を鉄骨枠付ブレース工法により施工します。②1階の寮室を多目的室に改修します、③屋上防水を改修します。④外壁を改修塗装します。⑤1階洗面所に身障者用トイレを設置します。⑥1階洗濯室を第2寄宿舎1階に移設します。⑦玄関にスロープを設置します。

工事期間中は、防音遮光シートを取付けるため寮生にはご迷惑をおかけしますがご協力願います。

### 【後記+お詫び】

2008年の夏はオリンピックで明け暮れました。皆さまも世界中から集まったアスリートのパフォーマンスに酔いしれたことと思います。熱気と興奮が地球環境にも作用したのか、一際暑い夏でした。

暑さと熱戦に感じたわけではありませんが、「高専通信」2008年夏号の発行が遅くなりましたこととお詫び申し上げます。